

ふれあい雪谷

平成24年 1月 新年号 通巻第85号

謹賀新年



椿（つばき）

小池 石垣 晴子さんの作品

母校の思い出 44

わんぱく少年

私の母校は、大田区立石川台中学校です。今から43年も前に卒業した頃の思い出を書くのは至難の業でした。この原稿のため、卒業アルバムを探し出すのに、納戸の大掃除からと家内を巻き込んで大仕事になってしまいました。（妻に感謝）

初めに石川台中学（石中）の沿革からお話します。昭和30年大森六中・田園調布中・雪谷中より分離合併で設立されました。

この地域では新しい学校でした。私は、第14回の卒業生です。この頃の石中は大田区全域から越境入学してくる程、優秀な生徒の集まる中学校で、同級生の中には羽田方面から通って来る生徒も居りました。そのような学校に入学した私は、勉強に追いついていくことが出来ずに常に下から1・2番を争っていました。

私は落ち着きがなくて好き嫌いで、ある日先生を激怒させることをしてしまいました。4時限目の授業が終わり、委員が「起立・礼」と言った時に、弁当を広げていた私は「いただきます」と言って、弁当に手を付けた瞬間、先生が私に駆け寄り、往復ビンタをして弁当を床にぶちまけ「学校始まって以来だー」と怒り狂い教室を出ていったのです。

よほど腹の虫の居所が悪かったのでしょうか。その日私は何もなかったかのように家に帰りましたが、夜突然、教頭先生が我が家に謝りに来たのです。学校での出来ごと一部始終を親に話し、わんぱく少年に頭を下げて帰って行かれました。私は父親に叱られると思い、びくついて居りましたが、父は「母親の作った弁当を床に投げ捨てるとは許せぬ！」この一言で、私は十分反省しました。そんな少年時代の私も今年で58歳になりますが、いつまでも少年の気持ちを忘れずに人生を歩みたいと思っています。

（東雪・星野正治）

編集後記

2012年新春を迎え、2011年を振り返ると、3月11日に発生した東日本大震災はいまなお、日本に大きな爪あとを残しております。

昨年あさがお号に掲載された「津波でんでんこ」・「災害と想定外」の記事は一読に価するものでした。

地球環境が悪化するなか、みんなで、たすけあい、豊かで安心できる、明るいニュースを多くお届け出来る年でありたいと思います。

（南雪谷・立麻裕穂）

ふれあい雪谷（創刊・平成2年（1990）12月20日） 年4回発行
（1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行）
【発行日】平成24年（2012年）新年号 1月1日（通巻・第85号）発行
【発行】地域力推進雪谷地区委員会 【編集】「ふれあい雪谷」編集委員会
【連絡先】雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

私の健康法 44

毎日、フィットネスクラブでも無理せず

漱石風に言うところ「親譲りの運動音痴で子供の頃からビリッケツ」。成長してからは大食い、動かず、飲み、打ち、喫うばかり。これじゃ体にいいわけやないヨリでしたが、会社勤めがなくなった2、3年前から突然思い立ってフィットネスクラブに通い出しました。

というのも、子供が小さい頃、バレーのレッスンに洗足池のクラブに通っており、たまに送り迎えをしたことがあったから、なじみがありました。

ただし激しいエアロビクスや筋肉トレーニングはダメ。とに角、クラブの休みの日以外は毎日、1時間でも、風呂に入ったり、マッサージュチェアに寝そべるだけでも通い続けることを目標にしてみました。

最初は自転車こぎでしたが、今はウォーキングマシン。ストレッチだけだったが、フラダンスなども楽しむようになり、体を動かすことに慣れようとしています。

一緒にいかがですか。
（池の台・丸山隆平）

サークル紹介 51

東中自治会囲碁教室

平成6年から始まった囲碁教室は、楽しみながら脳を活性化させ、お互いの交流を深め、健康を増進させるクラブです。

若い人から高齢者まで、日曜のひとときを、くつろぎながら楽しんでおります。

初心者から有段者まで幅広い人々が真剣に盤を囲んでいます。

・日時 毎月 第二・四日曜日 午後一時より
・場所 東雪谷会館
・参加費 無料



お気軽にご参加下さい。見学は自由です。一度、会場に足を運んでみませんか。年齢は問いません。ぜひ一度参加をお待ちしております。

（東中・菅野哲男）

みんなで語ろう！『昔』と『今』のわが地域 ゆきがや

妻が町会の集いから表題の写真集を持って来たのは、まだ寒いころだった。ページを繰るうちに懐かしく子供の頃が思い出された。私は雪谷の生まれではないが、幼少から現在に至るまで60余年をこの地で暮らしている。然し子供の頃の風景、出来事等何もかもが自分の脳裡から消え去ってしまいそうになっていることに気が付いた。

写真集を見て私が一番興味を持ったのは母校池雪小学校の事である。昭和24年の入学であるから、明治11年の開校時の事も、時計台を備えた威風堂々とした西洋風の校舎の事も知らないが、母校が歴史ある学校であることは非常に誇りに思う。当時の校舎は入学式の風景(写真)の左に見える平屋建ての校舎だった。今思えば、バラックのような物で、キティー台風で屋根が吹っ飛び2部授業、3部授業も経験した。昭和26年の大雪では学校の入り口がふさがってしまい、窓から直接出入りしたものだ。



池雪小入学式 昭和22年頃

写真の正面奥はプールであるが空襲にも耐えて残ったのだろう。4年生になると夏の体育の授業には水泳があり、身長の高かった私はプールの深い方で先生に突き落とされ、手足をバタバタさせて、はいあがると又突き落とされる。そんな事の繰り返しをしている内に自然と泳げるようになり、夏の終わり頃には学校代表として池雪・赤松・調布大塚小学校で行う3校対抗水泳大会に出場するほどに上達していたものです。

ゆきがやは雪谷と表記されるので低地と思われるが、荏原病院前のバス通り付近一帯は海拔20メートルも有り、大田区のなかでは一番の海拔である。「中原街道は郡の中部を縦貫して神奈川県下に通じる大動脈にして交通上無二の要路なり、然るに従来沼部・石川・千束等急坂相前後して中間に起伏し峻屹嶮難(しゅんきつげんなん)往来名状すべからず……」これは洗足池の中原街道沿いにある**中原街道改修記念碑**から抜粋したものである。当時交通の主は人馬で在ったろうが、急峻な山坂には皆が難行したのだろう。今の街道の礎にもなった改修工事は40年の年月を掛けて大正12年4月に完成している。重機のない明治・大正時代行われた工事が如何様なものであったかと思うと、先人の労苦に頭が下がります。洗足池交番付近から五反田方面を見ると道路の曲がり具合と坂の勾配が当時を忍ばせてくれる。この一冊の本を通じて、池雪小学校で学んだ友や恩師と**ゆきがや**の昔を語り合うことができた。

ありがとう、**ゆきがや**。

(希望ヶ丘・桑田克明)

美しい環境づくり 37

桜並木の将来



池上線の洗足池駅と石川台駅の間、切り通し上は道路が桜並木になっています。以前は桜のシーズンになると走ってくる電車、土手法面いっぱい咲く菜の花とその上を覆うさくらをセットにしたポスターなどが作られ絵になる風景になっていました。最近は桜がいささか寂しくなり菜の花も見られなくなりましたが、桜が満開になると線路をまたぐ笹丸橋や永久橋の上でカメラを構える人々が見られます。

この桜並木は昭和の初めに笹丸自治会有志の寄付によって植えられた30数本と戦後都が植えた数本が成長あるいは整理されて今の姿になったものです。ちなみに、現在は26本の桜が並んで春の花、夏の木陰、秋の黄葉で行き交う人々に憩いのひとときを与えています。

ところがこのところ樹に勢いがなくなっとうえ枝が少なくなってきました。剪定をして頂いている東急電鉄(株)の話によると、樹が老齢化して台風の折などに倒れて電車の運行を阻害する恐れがあるので近年は毎年剪定している。特に2011年は強剪定で大胆に枝を払い樹の上部を軽くするようにしたそうです。また、寿命近くなっている樹は危険になったら伐採して補充植栽は行わない方針とのことです。

永年親しまれてきた桜並木が消える方向にあるというのは今回の聞き込みで初めて知ったことです。笹丸自治会としてもこのことは今後の検討を経て関係者と協議を行わねばならないと考えています。

(笹丸・総務担当 荒井啓治)

『ひょうなきっかけ』

10月17日、洗足池に今年初めてキンクロハジロが姿を見せた。来春、彼らが北国へ帰って行くと、池は再び静けさを取り戻す。去年は、カワセミの親子やウリ坊のようなヒナを連れたゴイサギが並んで杭に止まって目を楽しませてくれたが、今年は殆ど姿を見せない。季節によってだけでなく、年々自然が移ろっているのを実感出来るのも、ウォーキングのお陰だ。

数年前、久しぶりに御岳山にハイキングに行った時のことだ。頂上から七代の滝まで行つての帰り道、連れあいは悠々と坂を登って行くのに、こっちは長年の不摂生がたたったのか、急坂を這いつくばって登る始末。坂上の茶屋に辿りつくなり、息絶え絶えでヘタリ込むと、茶屋の親父さんに「太り過ぎだ」と大笑いされた。不精な私がウォーキングを始めたのはそれ以来だ。ちょっとしたきっかけから始めたウォーキングのお陰で体重も減り、今では奥多摩や秩父の日帰り登山も楽しみになった。

大層なことは出来ないが、歩くことなら誰でも出来ると始めたことが結構長く続き、ちょっとは変わったようだ。変われば、まわりの景色も違って見えてくる。

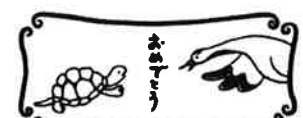
(石川台・横田嘉夫)

りー随筆

未だピンとこない還暦

四人兄弟の末っ子で昭和27年誕生、発展途上の子供時代の思い出は、第二京浜国道近くの我が家でも品鶴線の貨物列車音がよく聞こえました。遊び道具は思考錯誤で作るしかなく、よくドラム缶の上に乗る、行ったり来たりサーカス遊び！今は何でも有りの良き時代、現代っ子さん達の価値観はいかに？昭和33年の東京タワー開業は高所からの景観に恐怖で思わず後ずさり、オリンピック開催間近の馬込橋、新幹線の鉄橋架け替え、眠い深夜の見学会でした。10月10日大空にジェット機の描くカラフルな五輪がとても印象的でした。なにい〜お爺ちゃんお婆ちゃんが還暦？何やら赤いチャンチャンコに帽子を被り奇妙な容姿に啞然としました。自分もいつか・絶対いやだあ〜！あれから数十年、時代と共に人も超進化し、長寿、若返り、とくに若い方々のスタイルの良さには脱帽！ツウイギーさん来日、スリムな脚線美にミニスカート！ブームに乗れと若い女性からご婦人方までが…その容姿に何と表現したら良いのやら(笑)。若い若いと思っていた自身も還暦を迎え、大先輩方大勢いらっしゃるなか、まだまだ漢垂れ小僧にすぎません。父に言われた一言、おまえいったい幾つになったんだ、もう若くないんだろ〜(ドキ!)この頑張れエールシグナル！天国の父母、ご先祖様に感謝し、身体の動く限りステイヤングを目標に、仕事は勿論、次世代を担う子供達や、町会自治会等々、社会貢献に、これからも努力していく所存でございます。

新年を迎えられ、皆様のご多幸をご祈念申しあげます。
(上池上・上野義之)



俳句 (上池上)

年用意和服小物を買足して
福耳に一つのせたき年の豆

(太田美恵子)

女正月三年ぶりの和服かな
冬帝の怒りにふれて家ごもり

(小林迪子)

書初めに墨たつぷりと夢一字
船端を叩く大波冬鷗

(山下 功)

花器の横薔のままの寒椿
客去りて玄関広き初鏡

(岩波令子)

初富士や満ち足るる今輝きて
初宴続く絆のひ孫居て

(服部あさき)

